



来は酪農をやるんだという思いで酪農学園大学に入り、4年後に、今は合併で遠軽町になりましたが、白滝村で第一号の新規就農者になりました。

農業はどうしても世襲制で、おじいちゃん、おばあちゃんがいて、家族経営で、というのが主体で、当時は他所からの就農が全然ありませんでした。今は担い手センターなどがあってチャンスがいくらでもあります。当時はまだなくて、資金繰りも大変でした。右肩上がりの時代だったので、今のようない生産調整がない分夢がありました。そんな中で酪農をやりながら、3人の子育てと、ピアノ教室もやっていました。

その中で、お金を払えばいつでも好きなだけ食べ物を買えるということに疑問を持ち、都会の人に農業の本質を伝えることが自分の使命だと思ったのです。自分で畜産物を加工し、北海道物産展に出て行き、物販をしながら、「食べ物は命、限りがある」ということを伝えること、そういうことこそ農産物の付加価値だと思うのです。一対一でなかなか進まない活動ですが、都会の人に、食べ物に感謝することを伝えられればと思って出かけていきます。

リーフレットの写真は大阪梅田の物産展ですが、大阪の人はとても北海道が好きで、北海道物産というたたくさん来てくださって、梅田ではソフトクリームが一日2千個、並んでまで買ってください。ありがたい限りです。大阪は口コミがすごくて、梅田に来たらあそこに、と1週間のうちに広まります。北海道の食べ物はとても美味しいので、皆さん喜んでくださいます。

今、WTO交渉、FTA交渉など問題が出ていますが、北海道の農産物はオーストラリアと自由貿易が認められると、全部バッティングします。北海道の農業が根底から危うくなるのは目に見えていますし、今、起業して、自分の製品を使って自分で加工する女性がとても増えている中で、根本から潰されてしまいかねません。そこだけは死守していただきたいと思います。北海道だけでなく日本全国の問題ではありますが、安ければ輸入物でいいと思っている人がいることが信じられません。

## ◎知事

それを生産地域の工ごだという全国的な論調があり、とても残念に思います。消費者はそういうことは求めていない、美味しいものが安く外国から入ってくるならいいではないかというのですが、そういうことも都会の人に訴えてください。

∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞

## ■古内さん

お二人は北海道出身ではありませんが、私は札幌の石山という、定山溪に行く途中にある、小さな、南区で2番目に高齢化率が高いといわれているところで、商売をさせていただいています。大きな道路が一本できると大型店がどんどんできますが、そこから取り残された街で、歩いて買い物に行けるところが全然なくなって、どうしようかと皆で街づくりを考えたときに、地元の農家の方の協力を得て、農産物を出していただいて朝市を始めたのです。

物を買うだけでなく、その中に、買い物に来た人が皆でお茶を飲んでいけるような場所をと、社会福祉協議会の方が、お茶や漬け物を出して下さったりしているコミュニティ。退職したお父さん達など地域のボランティアの方がたくさんいらして、頑張ってくださいと、2日前くらいにチラシを作って撒いたり、拡声器で、今日は朝市ですよ、朝市にお出かけください、と声掛けをして、買い物に来ていただいています。

だいたい月に2回ですが、100人くらいの方々が2週間に1回、「これが楽しみで出てきたよ」と。特別大きな事はやっていませんが、地域の中で困っている人がいれば、どんなふうにお手伝いできるだろうか、というところから発した活動です。

商店街の活動もさせていただいています。今までは、ご主人はいろいろな会合に出られるが、奥さんは店番、というのが普通でしたが、今は男性の方も、このままでは商店街がだめになると気づき、おかみさんも勉強してくれなくては、という時代になりました。

私たちは実際の生活者、買い物するのは私たちで、感じることもいろいろあるので、女性もたくさん研修しましょう、ということで、北海道の商店街の女性部は年に1回いろいろな地方からも来てい

ただいて研修しています。皆、それぞれの地域の悩みを抱えて集まり、最後には、頑張ろう、来年もまた生き生きして集まろう、と。こういう仲間がいるから、また頑張れるという気がしています。

生鮮産品を置く店がなくなってしまい、皆、バスで停留所3、4つ乗り継いで、あるいは自転車に乗って買い物に行く街になってしまいました。朝市では、地元の農家の方が野菜や果物、椎茸などを持ち寄ってくださり、小さなお店の方が市場から仕入るようなものと一緒に販売しています。1店舗出店すると500円の場所代をいただいているのですが、そのお金が私たちの資金になります。ほとんど皆ボランティアで、出店した人もお手伝いしたり場所づくりをしてくださっています。



### ◎知事

審議会委員もお願いしています。ありがとうございます。地域の賑わいづくりにぜひご尽力をいただければと思います。

## 懇談会～環境生活部長、生活局次長等と、ざっくばらんに

### ◆斎藤さん

琴似でも朝市や夕市をやればいいと思うのです。何年か前から、土曜夕市をやりましょう、と商店街の方達と話をしているのですが、なかなかまとまりません。商店街に女性部がなくて、作ってほしい、作ってもらえば事務局長をやります、と言っているのですが。

### ■古内さん

朝市なら、やはり農産物が中心になると思うので、農業者の方を巻き込んでいただければ。

### ○部長

朝市などに、例えば、岡田さんのハムやソーセージが合うのではないですか。

### ●岡田さん

それぞれの地域で加工品を作っている方がいるので、やはりその地域のものを使うということを優先させた方がいいと思います。もちろん、要望があれば飛んで行きますよ。

### ■古内さん

誰々が作った何々ということを出しているのです。生産者がお店に立って、これは自分が作ったものだから美味しいですよ、とか。

∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞

### ○部長

新規で酪農を始めたいという若い人も出てきていますか。

### ●岡田さん

農業の中では、法人化して、企業的にやる方が増えてきていて、その農業法人会議のメンバーが今日来てくれていますが、北海道は農業者の人口が少なくなっています。

新規で酪農を、という人も出てはきていますが、一時期よりとても減っています。今、酪農自体が生産調整に入っているため、若い方にとっては夢が語れない状況だと思います。生産調整にも絡みませんが、高い農地を買って、酪農の場合恐らく一億くらいですが、一億をかけて新しい企業を起こすことが大変不安になってきているという雰囲気はあります。

農地というものの自体の考え方を、個人のものではなく、北海道なら北海道、県なら県、国なら国という踏まえ方でやっていかないと、今後は、新しい血もなかなか入っていきづらくなると思います。酪農の場合は30、50ヘクタール以上持たないと成り立たない時代なので、その土地代金を含めて企業を起こす、新規就農するには負担が大きすぎます。その土地を貸してもらい、農業をさせてもらうという考えにならないでしょうか。農地は農地としての利用をもっと大切にしておくべきだと思います。

## ○部長

まとまった農地がなかなかうまく手に入らないのではないのでしょうか。結構散在しているようですが。

## ●岡田さん

確かに札幌地域、江別や南幌など、気候や立地条件のよいところは、余っているところは余っています。道内でも、白滝のようなよくないところでも、平らな条件のよいところは周りの人たちがとってしまい、就農者にはどうしても「のこりもの」という現実があり、なかなか難しいところです。ただ、農地は農地として利用することで価値があると思うので、その辺の政策は、ただ新しい人を入れ替えていけばいいという問題ではないと思うのです。

## ○局次長

農業は法人化、企業化が求められていますが、なかなか進まないという状況もあるようですが。

## ●岡田さん

北海道では、法人は他の県と比べると多く、北海道は進んでいる方です。ただ、大型酪農にした直後に今回の生産調整はかなり厳しかったし、今年から働き手が売り手市場になったので、働き手の確保もままならない、外国人の受入れも問題がでてきたり、という状況です。

農業という分野は、企業化したところで、他の企業と同じような労働条件などはなかなかうまくいかないし、今後も問題も出てくるだろうし、いろいろと考えなければならないことが多いと思います。

∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞

## ○部長

インターネットなどで販売されていらっしゃるようですが、道内が多いのですか、やはり道外が多いですか。

## ●岡田さん

私はあまりパソコンは得意ではないし、関わっている時間があまりないので、うちの場合はいわゆる通販です。道外も多く、抱えている顧客は5千くらいで、道外が4、5割くらいです。たまたま私が東京で、夫が九州なので、あちらの顧客もかなり多いですね。

## ○部長

なかなか自分でインターネットで買うことができない人もいるでしょうから、商店街とうまく連携が取ればいいですね。

## ■古内さん

私たちのところも、高齢者はそういうこととは無縁で、インターネットではなくて、やはり対面で買うのが楽しいと言います。「前回来ていなかったけど、風邪をひいてたのですか」と声掛けをすることがつながりなので。珍しいものが手に入るととても喜んでいただけるので、時々違う地域から送ってきてもらって並べたりもします。そうすると、「違うものがあって嬉しい」と言ってもらえます。これを機会に、ぜひ岡田さんの製品も。

地元の農協は、空き地を地域の人たちに活用してもらって、作った人たちが毎日朝持って行って夕方まで売るといふ、私たちの朝市のもっと大きいものも今回やり始めました。安心して自分の息子達に後を継がせたい、という思いもあって、新しい取組を始めたという感じがしています。私たちのお店と同じように、自分で作った野菜を自分の棚に置いて買っていただくという試みで、農協が間に入って場所を設定して。連携してやっていると思います。

∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞

## ○局次長

全道的に女性の商業の団体が活発に活動されているということで、今、地域の商店街が疲弊していると言われますが、地域との結びつきということで、皆さん、どのように工夫されていらっしゃるのですか。

## ■古内さん



例えば、夏祭りにしても、商店街がなくなったら、盛り上がらない、できないという状況があります。でも、消費者の方に、このお祭りは商店街が頑張ってるんだ、ということがうまく伝わらないのです。このお祭りは私たちがやっているのだ、とどんどん宣伝しようと言っています。皆さんに喜んでもらうだけでなく、私たちがお店がなくなったらできなくなるのだから、皆さんどうぞ利用してくださいと、宣伝を兼ねてやらせていただいています。ただお祭りをやって出店をやって終わりではなく、後のゴミの始末の問題や全てのことに関わりながら、地域の高校生、大学生と一緒に巻き込んで活動していくということが、商店街にこれから求められるのではないかと思います。

### ○部長

琴似の商店街というと、何でもあって、かなり新しいものから古いものやごちゃごちゃした雰囲気のものまであって、完結しているというイメージがありますね。新しい店と古い店が混在していて。

### ◆斎藤さん

札幌第2の商店街と言われていますが、大きい分だけ動きが遅いです。お祭りなども一緒にやりますが、商店街なのだからどんどん売ればいいのに、ワゴンセールもしません。街づくりだからやらない、と言いますが、商店街なのだから、ものを売るのが目標でいいと思うのですが。

空き店舗もできますが、回転が速いですね。飲食店が多くなっていて、物販店が少なくなっているということで、商店街の活動の力としては落ちている、と商店街の人たちは言っています。

もう一つは、今までは自宅が2階や奥にあってそこで商売をしていたのが、今は家主になって、商売は違う人がしていて、どこかから通ってきています。全国の話も聞きます、過渡期なのかもしれません。

去年でしたか、前橋に行ったら、市が、商店の人はそこに住まないで、郊外に住んで、お店を貸しましょうという施策をとったらしいのですが、裏目に出てシャッター通りになってしまっていました。とても寂しかったです。地域の力を文化で何とかしよう、と前橋で頑張っているグループがあって、全国の文化フォーラムを空き店舗を使ってやったのですが、あそこまでシャッターが閉まってしまうと、何をどうしたらいいのかわからない状態。



琴似あたりは今、人口がこの5年間で13%増えています。劇場の隣もマンションで、私たちがマンションが建つから出て行けと言われてたわけですが。新しい住民が入ってくる街というのは、上手くすると活気が出ると思います。ただ、高齢でお独りの方がずいぶんいらっちゃって、外になかなか出なくなるということがあがるようで、たまに劇場に迷い込んだように来て1時間くらい話し込まれることがあります。お話がしたいみたいで、そういう場所を商店街の中に作ればいいのに、と思うのです。

劇場は資金のことがあって全然余裕がなくて、最初はあれもこれもと夢が広がっていましたが、見積もりをとったら1億5千万くらいになってしまい、どんどん絞って最低限のものにしてしまったのですが、街の中にそういう、「いしやま朝市」のような場所がいつもあがるような、物は少しでもいい、集まってお話ができるような場所が作れるといいのに、と思います。

### ■古内さん

恒例化していけるといいですね。単発で、お祭りの日などに朝市、夕市とやってもなかなか盛り上がりません。私たちのところは、規模は大きくありませんが、3年くらい続けてきたので、それがだんだんわかっていただいて、「2週間に1回は買い物に行くよ」と言っています。

### ◆斎藤さん

資金力もない、体力も限られているので、1年に1回やるだけでもとても大変だと思うので、ずっと続けるのはもっと大変ですね。

### ○部長

皆、集まって話ができる場所を求めているのですね。

### ◆斎藤さん

そういう場所があった方がいいと思います、いくらインターネットが発達しても。私たちが仕事関

係はほとんどメールばかりでやっていますが、直接対面の場所は要ります。特に、子どもと高齢者、働き盛りではない人達にとっては不可欠です。

### ○部長

商店街だから、そこに安全・安心な食べ物が手に入るとか、そういうものを組み合わせて、というのいいかもしれませんね。

∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞

### ○局次長

岡田さんは東京から北海道にいられて、大学を出られていきなり新規就農され、それ自体がチャレンジだと思いますが、北海道の人間はどうでしょうか、本州からいられてそういうチャレンジをされた時に、北海道の人はチャレンジしないのが、何かが違うのでしょうか。率直に、感じられていることがあれば。

### ●岡田さん

もうすっかり北海道人、どっぷり浸かっていますので。特に農業界では、しがらみがない分、大変さもありますが、新しいことをするとき、そういうことを感じないでできるということではないかと思います。北海道人が、というより、私の場合は農業分野しか知りませんが、農業分野は地に這いつくばって仕事をしているわけで、なかなか外の空気に触れるチャンスがないし、特に白滝のように山の中では、出て行くこと自体が大変だと思います。



入ったときには、田舎特有の閉鎖性というのがありましたが、この10年、いろいろなところで講演させていただいていますが、道の政策の追い風もあって、女性の起業家が、女性自身がすごく出てくるようになりました。そういう意味では、チャレンジ精神というものは皆同じように持っていらっしゃると思います。ただ、背負っているしがらみがあるが故に、やりづらいというのがあるのかもしれない。

今日、法人会で一緒に来ている方は、京都からの新規就農です、京大を出られて。そういう方も頑張っていると思います。私もそうですが、どうしても他所から来ると、何かとピックアップされやすいのかもしれない。頑張っている方はたくさんいるのは現実。私の場合、農業をやりながらピアノを教えていたりとか、周りは結構言っていたかもしれませんが、しがらみがないだけに、好き勝手なことができたかなと思います。

税金の申告も、当時は奥さん、女性がやっているところはありませんでした。私が入ったとき、何も知らなかったのが白色申告をして、これはおかしいのではないかと云ったら、青色にしたらどうかとアドバイスをもらい、翌年から青色申告にして29年続けているのですが、そういう時に男性しか来ません。自分が出しゃばって出て行っても、どなたかが言っていたかもしれませんが、夫は何も言いません。そこで、おじいちゃん、おばあちゃんがいれば、嫁の分際で、と言われたかもしれませんが、夫は何も言わずにやらせてくれたので、そういう意味でチャレンジできたのかもしれない。

∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞

### ○局次長

古内さんは先ほど、今は商店街も女性が出て行かないと収まりがつかないとおっしゃっていましたが。

### ■古内さん

周りもそういうふうにも認めてくれるようになったのだらうと思います。うちの商店街の組合も、今まで理事に女性がいませんでしたが、仲間に入れていただき、意見を言わせていただくようになりました。自分で女性部も作り、自分の後ろには十何人もいるということで、発言できるようになり、何かあると「実行部隊もこんなにいるから言ってください」と話ができます。

全道の女性部も、人数的にはそれほど大きくはありませんが、帯広、釧路、いろいろな地域の仲間がいます。札幌で感じていることと、地域の方はまた違うので、いいところはどんどん取り入れます

し、それをお話してできる機会をいただけるのは組織があるからだと思います。自分一人だと何もできませんが、組織と一緒にいることによって研修会もできるし、いろいろなところの情報も入ってきます。一人で店にいて前掛けしてはだめ、前掛けを外して出ましょう、と声を掛けています。「人前で何もしゃべれなくてもいいのか」と言っても、「偉そうなことをしゃべらなくても、前掛け外して来ればいいだけの会にするから、出ましょう」ということにして。

やはり男の人の社会だったのが、男社会だという意識が私たちの頭の中にもありました。経営でも税金の申告でもそうですが、女性が出るところではないと。うちはたまたま主人も、どんどん出るところは出たらい、という考え方の人で、出してくれます。

出ると、女の人はずっとまじめに勉強します。研修会でも一晩中語ります、まちのことや商売のことを、お酒もいれずに。こんなにも皆語りた、わかり合いた、自分のことをわかってほしいのです。話をすることが最高のお酒でつまみ。私たちの研修会は、お開きというのがなく、別部屋を作っていたらいい、また語り続けます。まじめだと思います。

### ○部長

今度、表現力の、人前で語る訓練をしたほうがいいのかもわからない。

### ◆齋藤さん

言いたいことさえあればいいのです。今、大学の講座で表現というのを持っていますが、表現したいことが彼らの中になくて大変です。大学の方は、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力を目的に講座を作っているのですが、彼らの中に、誰かとつながりたい、これを言いたい、というのがないから、「何をしろというのか」という感じで。それと比べると、言いたいことがあれば、それを出せばいいのです。出すことに対する恐怖さえ取り除けばいいだけです。言いたいことがあれば、こういうことを言ったらどう思われるか、ということはないんだ、ということだけがわかればいいだけですから、そんなに難しいことではありません。

### ○局次長

根本的な問題ですね。

### ○部長

だから、英語教育でも、英語をしゃべれないのは、日本人は語りたことがないからだ、と言われるのですね。

### ◆齋藤さん

彼らは必要としていないのだと思います。ふざけているわけでも、悪い子たちでもない、ただ、切実に必要ではないのです。この自分の近くの何人かとしゃべってれば、これで世界が完結しているというような。社会に出たらそうではないから、これからなのだと思いますが。難しいですね。満たされ過ぎているせいかもしれないし、兄弟がいないということもあるかとも思いますし。

### ■古内さん



うちの朝市では、そういうことも考えて、近くに東海大学があるので、大学生にボランティアで3カ月に一回ずつ交替で来てもらっています、その中で何かを学んでもらえればと。初めは「いらっしゃいませ」が言えない、どうしたらいいのかと言うので、大きな声で言えばいいと教えて。「いらっしゃいませ」の声も出せなかった子が、3ヶ月もすると、いろいろなお話をして、「来てくれてありがとう」「お元気でしたか」と声をかけながら。そこで学んだことを後でレポートも出してくれますが、人と話すことがこんなに楽しいかと思いました、と。街づくりをやっている私たち大人にも責任があるのではないか、ということで受け入れています。朝市から何でもつながりたいね、という話をしています。

### ○局次長

農業でも、今の若い人の考え方は、9時5時の世界ではないということから、となると、なかなか難しいのではないですか。今、農業をやっている方々のお子さん達はいなくなっていて、逆に外から入ってくるのか。

## ●岡田さん

子ども自体が少ないですね。人口も減っています。うちは、実習生が、学生ばかりではありませんが、今までに100人近くになりました。1ヶ月から1、2年という人が多いのですが、ずっと見てみると、どういうわけか、女の子の方がしっかりしていますね。女の子の方がやりたいことがはっきりしているようで、男の子の方が大丈夫かなと思います、皆が皆そうではありませんが、若い男の子が優しすぎるという感じがします。

女の子を見ると、農業に興味を持つのはいいのですが、女の人が自分独りでこういう農業をできるかというそういうわけにもいかないでしょうし、農業法人の受け皿もありますけれども、農業はやりたいが農家の嫁に行くのは嫌、という声は多く、農業人口はこのままでは確実に減っていくと思います。

∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞

## ○局次長

お子さん達は母親の活動なりをご覧になっていかがですか。

## ◆斎藤さん

今、高校2年、夢は専業主婦と言い切り、でも大学には行きたい、保母になろうかと言っていたのが、今度は大企業の受付嬢になるにはどうしたらいいのかと聞いてきて、今はアルバイトに励んでいます。アルバイト先ではとても仕事ができるらしく、ほめてもらえるから。ダンスを習わせていたので、身体が使えるのでしょうか、自分の身体がわかっているのだと思います。芝居は全然。親を見て育てて反動が来るのかもしれませんがね、こんなに大変なことをやっているのにこんなくらいしか、と。私の妹が専業主婦なので、それを見て、ちゃんと稼ぎのある旦那をつかまえて専業主婦がいいと思っているようです。

## ●岡田さん

農業というのは新規就農して軌道にのるまで10年かかります。名刺にも入れているオオバナノエンレイソウ、これは北大の徽章にもなっていますが、種から育てた場合10年かかって花が咲く、農業もそれくらいかかるよ、ということで名付けました。

実は、3年前までは、10年かかって形になったのだから、閉めるときも10年かかるだろう、うちは誰も継がないから、ということで、10年かけて65歳くらいには閉じれるように準備をし始めなくては、と言っていました。では、いよいよどうするかと子ども達に問いかけたら、自分たちが継ぐと言うのです。それなら考え方を変えなくては大変だと急転回しました。うちは農家と販売を分けているので、加工・販売の会社は長男が継いで、農業は、一番下の娘が、今農業系の大学に行っているので、卒業したら彼氏を連れて帰ってくると宣言してくれました。酪農をやりたいと言ってはくれているのですが、酪農の方も、今、トウモロコシもエネルギー源に代わってエサの値上がりも心配だし、どうなっていくかわからない、乳価も上がらない、明るい話題がない中でさせるのは親として酷いとも思ったりします。でも、やめてしまうよりはいいかと思えますし、また、楽しいこともたくさんあるはずと信じています。

## ○部長

ぜひ娘さん達が新たなチャレンジをされますように。

(了)